

## **Evaluation for association between indwelling urethral catheter placement and risk of recurrent urethral obstruction in cats**

Journal of the American Veterinary Medical Association 2018 June

### Introduction

猫の尿道閉塞は放置すると数日で死に至る緊急疾患である。適切な初期治療で良好な予後を得られるが、再発率(15-36%)が低い事実は事実である。過去の報告から再発率に影響する要因は複数あるが、本研究の目的は入院治療と通院治療で再発率に違いが現れるか比較した。

### Material and method

Prospective cohort study

- ・ 2014-2015 に Red Bank Vet Hospital に尿道閉塞で来院した猫 91 症例
- ・ 入院群、通院群ともに閉塞解除のため 3.5Fr カテーテルを使用
- ・ 除外； 12 ヶ月齢未満・メス・膀胱腫瘍・膀胱破裂・尿道断裂・神経原性排尿障害

### Result

**治療後の再閉塞 入院：11% (5/46) 通院 31% (14/45)**

(1 週間以内の再閉塞 18 / 19 症例)

	結晶あり	膀胱穿刺	抗生剤使用	カテ挿入時間	カテ留置時間
再閉塞あり	50% (5/10)	16% (3/18)	74% (14/19)	1 (1-7)min	26 (14-36)min
再閉塞なし	42% (20/47)	7% (5/69)	67% (48/72)	1 (1-10)min	28 (12-25)min
				Median(range)	Median(range)

	透明	淡黄色	黄色	淡赤色	赤色
再閉塞あり	0% (0/3)	0% (0/3)	0% (0/3)	0% (0/3)	100% (3/3)
再閉塞なし	35% (7/20)	15% (3/20)	15% (3/20)	30% (6/20)	5% (1/20)

### Discussion

- ・ 再閉塞のリスクは入院治療より通院治療の方が **3.7 倍**高い
- ・ カテーテル抜去直後が**血尿**であれば再閉塞のリスク高い
- ・ カテーテル挿入時の難易度や留置期間と再閉塞のリスクに相関なし
- ・ (Limitation) 治療内容の一部（投薬や輸液量、食事療法など）が統一されていない
- ・ 治療グループの選択が飼い主の判断（選択バイアス）

### Comment

猫における尿道閉塞解除後の治療方針を判断する上で、利用可能な情報である。また、再発を繰り返す様な、いわゆる“尿道造瘻術が必要な症例”を早期に見極めるためにはさらなる客観的な指標（結石の性状や尿道径の違いが予後に与える影響など）が必要である。